

如く労働組合に付く

日本の労働同盟書記

赤松克彦

題未定

慶大文壇

向井鹿和

概況

労働同盟の出来(創始)に疑問を抱いたが、問題が如何なるものであるか
 可なり各方面の注意を引いたと云ふ。其の中心となるのは、
 殊に労働同盟の会や、労働思想の同一性がある、其他
 の人は労働組合や、職業者の利益(集めおぼえ)の人のいゝ。
 初め、之は強人の強女強説といふことはいはれぬが、之論の強言
 は本人にすうし判りがわゆるといふ程、彼が可なり低級な修養と
 不能なり。
 此の講演會の主催者たる聯合労働会といふものは、労働労働同盟と
 いふやうなものであり、現在では、却つて労働人の精神修

労働研究

労働組合と主として、労働組合の、所謂労働同盟に從事する労働人に見
 らる、戦闘的階級意識の強い、尤も中には性の社会的地位の
 労働組合の労働関係に對し、職業者の、こゝろ、言ひなら
 の上、たいしてはあつたが、未だ、はつきりしない程度のもので、
 所以かと云へば、知識とて、持つてゐるに過ぎぬと云へる。

五月九日 矢次一夫

出陣